



5 晴天鶴

山元春拳

大正五年(一九一六)

絹本着色

各一三〇・五×五一・五

三幅対

中幅には旭日を背にした富士の壮観を据え、右幅には老松と砂洲を、左幅には険峻な巖と白波を配し、その間を真白い丹頂鶴が飛び交う。左右幅では老松や巖など、どっしりとした量感をたたえたモチーフを用いて近景に画の重心を置くのに対し、中幅では近景を排することで富士の威容を際立たせている。

本作は大正五年(一九一六)十一月、裕仁親王(後の昭和天皇)の立太子礼における奉祝の御題「晴天鶴」に対し、山元春拳(一八七一〜一九三三)が貞明皇后の御下命を受けて制作したもの。富

士は日本を象徴し、松や巖、鶴はその繁栄が永続することを暗示する。雄大な国土と皇室とを讃える、慶祝の場にあふさわしい作品である。

春拳は円山四条派の野村文孝と森寛齋に師事した滋賀県出身の画家であり、竹内栖鳳とともに近代京都画壇の両雄として在時から高い評価を得、門弟も多かった。本作の翌年には、帝室技芸員に任命されている。円山四条派の伝統的な画法を修める一方、油絵や写真などの新技術にも精通していた。その瀟洒で実在感のある表現は、画派の祖である円山応挙を彷彿させる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan